

【No. 3】 次の文の内容と合致するものとして最も妥当なのはどれか。

都市が拡大していくと、都市の内部分化が進んでいく。都心には官庁、金融機関、大企業の本社・支社等の中枢管理機能が集中する中心業務地区（CBD：Central Business District）が形成され、その周辺にはデパート、高級商店街、ホテル等が立地する。都心は経済活動の中心地となるため、地価が高くなり、建物も高層化していく。

しかし、人は働くためにCBD にやってくるだけである。地価の高騰とともに住民は郊外に引っ越していくため、CBD に住んでいる人は限られ、昼間人口は高いが夜間人口は少ない。都心は地価が高いため、土地を所有する父親が亡くなると、その土地を相続した親族が高額な相続税を支払えず、土地を売って郊外に引っ越すことになる。そのため、都心は人口が減少するだけでなく、高齢化も進む。このように都心部で人口が減り、郊外で人口が増加する「ドーナツ化現象」が生じる。都心では人口流出とともに小・中学校の閉鎖・統合が進み、郊外にはマンモス学校が誕生していく。都心に住んでいる人が減少し、さらに住民の高齢化が進むと、さまざまな問題が生じてくる。

その一つが、地域コミュニティの存続の危機だ。たとえば、京都の中心街では貞観年間（9世紀）より続く祇園祭ぎおんまつりが毎年7月に行われるが、都心の住民の減少と高齢化により、山車だしを引っ張る引き手が不足し、お祭りの存続に影響が出てきた。そこで、祇園祭の頃になると、多数の大学生や留学生が引き手のアルバイトとして駆り出される。祇園祭で山車を引く外国人の姿が多いのはそのためだ。

高度経済成長期以降に進んだドーナツ化現象であるが、1996～98年に深刻化したバブル景気崩壊により、地価の下落や不良債権の処理、企業や行政の遊休地の放出によって、都心での不動産取得が容易になっていき、また、超高層マンションの吸引力も重なって、都心の利点が見直されるようになった。その結果、都心に人々が回帰し、その人口が増加する現象が見られるようになった。

都市部の拡大とともに、郊外地域で無秩序、無計画に都市化が進んでいくと（スプロール現象と呼ばれる）、農地と住宅、工場などが混在し、住宅地に隣接する工場の騒音がうるさい、住宅地に残ってしまった養豚場の臭いがひどいといった苦情が出たり、さまざまな問題が生じてくる。そのスプロール現象を防止するために、日本では市街化調整区域しげきあ調整区域が設けられている。これは市街化を抑制する区域のことを指し、あらたに建築物を建てたり、増築することを極力抑える区域となっている。

1. 都市では、昼間人口が夜間人口より多くなると、中心街が空洞化して治安が悪くなる。
2. 日本の中心街は物価が高いため、留学生は学費を稼ぐために祇園祭に参加している。
3. CBD が形成されドーナツ化現象が進むと、都心では地域コミュニティの存続の危機が生じる。
4. 都市化が進んだ地域では、デパートやホテルなどが無秩序に存在するようになる。
5. 市街化調整区域の設定は、スプロール現象やドーナツ化現象の防止に効果がある。

【No. 4】 次の  の文の後に、A～Eを並べ替えて続けると意味の通った文章になるが、その順序として最も妥当なのはどれか。

遊びはなぜ、なんのためにあるのか。昔から、哲学者や思想家はこの疑問について考えてきた。なかでも有名なのは、オランダの文化史家ヨハン・ホイジンガである。その著書『ホモ・ルーデンス』では、古今東西のさまざまな遊びの由来や意味が考察され、遊びそのものは「無為」、すなわち直接は役に立たないものだが、ヒトはそれに意味や価値を見出すということが強調されている。彼は、広義の遊びにスポーツも含めている。そしてスポーツも無為だという。

A：無為なものに興ずる存在、それがヒトであり、動物と違うのはその点だという。

B：すなわち、遊びもスポーツも「無為」ではない。

C：しかし、遊びやスポーツを、動物行動学や発達心理学の観点から見ると、ひとつの大きな（ある意味で当然の）役割が浮かび上がる。それは、運動スキルや社会的スキルの習得、すなわち一種のトレーニングという役目である。

D：遊びは、動物ではそういう役目を担っている。ヒトでの遊びが動物とは違った役割をもっている（あるいはなんの役割ももっていない）と考えるほうが、むしろ不自然だ。

E：狩りをする動物や社会を構成する動物、なかでも一人前になるのに時間がかかるような動物は、よく遊ぶ（身近なところで子イヌや子ネコを思い浮かべてもらうとよい）。そしてそうした遊びのほとんどは、子ども時代に特有だ。つまり、子ども時代に、狩りのしかたや狩りの対象を覚え、仲間とうまくやってゆくための、あるいは敵に対処するためのスキルを習得する。

1. A→C→B→E→D
2. A→D→C→E→B
3. C→B→A→E→D
4. C→D→B→E→A
5. E→D→B→C→A

【No. 5】 次の文の内容と合致するものとして最も妥当なのはどれか。

Social media, magazines and shop windows bombard people daily with things to buy, and British consumers are buying more clothes and shoes than ever before. Online shopping means it is easy for customers to buy without thinking, while major brands offer such cheap clothes that they can be treated like disposable items — worn two or three times and then thrown away.

In Britain, the average person spends more than £1,000 on new clothes a year, which is around four per cent of their income. That might not sound like much, but that figure hides two far more worrying trends for society and for the environment. First, a lot of that consumer spending is via credit cards. British people currently owe approximately £670 per adult to credit card companies. That's 66 per cent of the average wardrobe budget. Also, not only are people spending money they don't have, they're using it to buy things they don't need. Britain throws away 300,000 tons of clothing a year, most of which goes into landfill sites.

People might not realise they are part of the disposable clothing problem because they donate their unwanted clothes to charities. But charity shops can't sell all those unwanted clothes. 'Fast fashion' goes out of fashion as quickly as it came in and is often too poor quality to recycle; people don't want to buy it second-hand. Huge quantities end up being thrown away, and a lot of clothes that charities can't sell are sent abroad, causing even more economic and environmental problems.

1. 英国の消費者は、オンラインショッピングを気軽に利用しており、靴よりも服を多く購入している。
2. 英国の全人口の約4%の人が、合計1,000ポンド以上の服を毎年購入しているが、それらのうち多くを2、3回着ただけで捨ててしまう。
3. クレジットカードによる買い物を続けた結果、クレジットカード会社への支払いができなくなり、破産する人が増加している。
4. 慈善団体は質の良い服を寄付するよう人々に呼びかけているが、有名ブランドの質の良い服はほとんど寄付されない。
5. 大量の中古の服が捨てられたり海外に送られたりしており、経済面や環境面における更なる問題が引き起こされている。

【No. 8】 ある生徒50名のクラスでは、物理、化学、生物の3 科目の選択授業が行われ、このクラスの全生徒は、これらの科目のうち、 1 科目以上の科目を履修した。次のことが分かっているとき、生物を履修せずに物理と化学の2 科目のみを履修した者は何名か。

- 1 科目のみを履修した者は10名、 3 科目全てを履修した者は4 名であった。
- 物理を履修した者は42名、化学を履修した者は36名、生物を履修した者は16 名であった。
- 生物1 科目のみを履修した者は1 名であった。

1. 22 名
2. 23 名
3. 24 名
4. 25 名
5. 26 名

【No. 9】 図のような8 部屋から成る2 階建てのアパートがあり、各部屋にA～Hの8 人が1 人ずつ住んでいる。右端の部屋にはCが住んでおり、その真下の部屋では鳥を飼っている。また、左から2 番目の部屋にはEが住んでおり、その真上の部屋ではうさぎを飼っている。

	うさぎ		C	2 階
	E		鳥	1 階

次のことが分かっているとき、確実にいえることとして最も妥当なのはどれか。

ただし、1 部屋で飼うことのできるペットは1 種類とする。

- Gの真下の部屋に住んでいるAは、ペットを飼っていない。
- Bの両隣の部屋ではそれぞれ犬と猫を飼っている。
- DとHは隣り合う部屋に住んでおり、Hが魚を飼っている。
- 1 階と2 階それぞれに、同じ種類のペットを飼う者2 人が1 組ずつおり、同じ種類のペットを飼う者どうしは隣り合わない部屋に住んでいる。

1. Cはうさぎを飼っている。
2. Eは鳥を飼っている。
3. Gは犬を飼っている。
4. CとFは同じ種類のペットを飼っている。
5. EとHは同じ種類のペットを飼っている。

【No. 16】 1円，5円，10円の硬貨が合わせて12枚ある。これをAとBの2人に6枚ずつ配ったところ，2人の金額の差は11円となった。Aに配られた1円硬貨が3枚であることが分かっているとき，最初にあった5円硬貨の枚数は何枚か。

1. 2枚
2. 3枚
3. 4枚
4. 5枚
5. 6枚

【No. 35】 日本国憲法において，「自由権」，「社会権」，「参政権」などが定められている。次のA～Eのうち，「自由権」として妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A：不当に人権を侵害された者が，救済を求めて裁判を受ける権利
- B：自己に不利益な供述を拒否できる権利
- C：すべて選挙において，秘密投票を保障される権利
- D：公務員を選定・罷免する権利
- E：国や地方公共団体に，施策について希望を述べる権利

1. A，C，E
2. A，E
3. B
4. B，C，D
5. D